

がんセンター 便り

宮城県立がんセンター地域医療連携室



切らずに治す放射線療法 ～根治治療から緩和治療まで幅広く対応します～

放射線治療科 診療科長 藤本 圭介



放射線治療科ではリニアック3台を保有、常勤の放射線腫瘍医2名が在籍し、がんの放射線治療全般を担当しています。専従のがん放射線療法認定看護師・放射線治療専門技師・品質管理士・医学物理士などの高度な教育を受けた専門スタッフとともに診療に当たっており、放射線治療部門としてチーム医療を実践し、患者さんに適切かつ多面的なサポートができるよう配慮しています。

放射線治療はがんの集学的診療において重要な役割を有するため、治療全般を紹介元と連携して進めております。当科単独で診療となることはほとんどなく、院内外の主治医の先生と相談して治療方針を決定、当科での治療中・治療終了後の経過観察期においても都度連絡を取って方針を相談することとしております。

我々は放射線治療の適応判断において、画像・病理検査をはじめとして多種の臨床情報を参照します。初診時に紹介状とあわせてご提供いただければ幸いに存じます。新患外来診療は週4日（月～木）行っており、基本的には完全予約制の診療体制ですが、転移性脊髄圧迫による麻痺などのがん救急症状にもできるだけ迅速な対応を心がけておりますので、お困りの際には電話で随時ご相談ください。

以下、当科で提供しております治療につきご紹介いたします。

1. 体外照射

- ・汎用機による照射：各部位の放射線治療（根治治療から緩和治療まで）に広く用いております。特殊治療として、1)肺や肝臓への"体幹部定位照射"、2)体内での臓器移動を補正して病巣に正確に照射する"画像誘導放射線治療(IGRT)"、3)血液疾患に対する"全身照射"にも対応可能な能力を有しています。
- ・トモセラピーによる照射：2013年9月導入の"トモセラピー"を利用して"強度変調放射線治療(IMRT)"を行っております。当院では主に頭頸部腫瘍や前立腺癌を対象に行っていますが、その他の腫瘍に対しても、放射線から保護すべき重要臓器が近接する場合には積極的に適用を考慮しております。

2. 小線源治療

- ・放射性物質であるイリジウム-192を体内に一定時間挿入し、体の中から放射線を照射する装置を有しています。子宮頸癌に対する根治治療の際に、体外照射と組み合わせて行っております（腔内照射）。
 - ・前立腺癌に対する小線源治療は当院では行っておりません（宮城県内では東北大学病院のみとなります）。

3. ストロンチウム-89による放射性同位元素(RI)内照射療法

- ・多発骨転移の痛みに対するストロンチウム-89による放射性同位元素(RI)内照射療法を外来で施行可能です。体外照射と組み合わせて、骨転移治療の一環として行う場合もあります。（現在のところ、本治療は入院では行っておりません。）



写真：放射線治療部門スタッフ同
（前列中央 放射線治療科 医師 佐藤 友美）

看護部の紹介

地域医療連携の強化をめざして

看護部長 門間 京子



当センターは、都道府県がん診療連携拠点病院であり、かつ、東北唯一のがん専門病院として、がんの高度先進治療に加え、緩和ケアや研究を含めた、「がん征圧の拠点」の役割を担っています。その中で地域のがん看護をリードする自覚を持って看護を実践しています。

2人に1人ががんになる現代。今後、高齢化に伴い更にながらがん看護に対する期待はかつてないほど大きい。患者とその家族に最も近い職種として医療現場で、「がん」と「老い」に共に向き合いながら暮らしを支える役割が期待されています。一人ひとりの患者さんに寄り添い、共に歩み「ここでしかできないがん看護」を提供したいと思っています。このような中で、病院の方針の下で行っている看護部の取り組みを紹介いたします。

◆ 緩和ケアセンターの設置

すべてのがん患者やその家族などに対して、診断時からより迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するため、これまでの「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」、「緩和ケア病棟」等を統括し、活動を行う院内組織であり、医師・看護師を中心とした多職種が連携した緩和ケアに関するチーム医療を提供いたします。来年春の設置を目指して準備をしているところです。看護部からは認定看護師2名の専従が中心となり、近日中に「がん看護外来」を開設する予定です。

◆ 看護部公開研修会

がん診療連携拠点病院として、専門的ながん医療の提供を始め、地域のがん診療の連携協力体制の指導やがん患者に対する相談支援及び情報提供も重要な役割となっています。本研修会は、「地域における看護・ケアの質の向上に寄与すること」を目的とし、平成24年1月に第1回を開催し、11月には第9回を迎えます。

◆ 宮城県がん診療連携協議会看護部会の創設

今年7月の当総会にて「看護部会」が承認され、去る9月4日に都道府県・地域がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院の8名の看護部長が集い、第1回会合が開催されました。宮城県のがん看護の質向上のため、看護管理者のネットワークを構築し、協議会各部会の活動を看護管理者の視点で支援することを目的としています。今後の具体的な活動として、宮城県のがん看護の情報の集約と発信（がん看護の実態調査や院内外への周知活動）をしていく予定です。

最後に、今後とも質の高いがん看護を提供し、がん専門病院として存在価値のある看護部として努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

認定看護師の紹介

● 乳がん看護認定看護師

五安城 芙由子



乳がんは女性のがん罹患患者数第1位であり、年間6万人を超える人が診断を受け、その数は年々増加しています。乳がんは一人ひとりの病状によって治療も異なり、患者さんは病気と治療に伴う生活への影響を考えながら治療選択をしていきます。

乳がん看護認定看護師は、患者さんとご家族を含め、治療選択のサポート、集学的治療による影響や必要な知識の提供、セルフケア確立へのアドバイス、ボディイメージの変容に伴うケア、術後のリンパ浮腫予防ケアなどを行います。また、日々の看護の中での相談など乳がん看護の向上に向けた取り組みを行っています。

現在は、外来で患者さんと関わりながら活動をしています。初診の時から患者さんやご家族が安心感をもって、乳がんと向き合っていくことができるよう支援していきます。

● がん化学療法看護認定看護師

高子 利美 (写真:左) 門馬 仁美 (写真:右)



がん化学療法を受ける患者さんが、確実・安全・安楽に治療が継続できるように努めています。近年、多種多様な新規抗がん薬の開発がなされ様々な副作用を呈する患者さんもあり、病棟、外来看護師と共に連携をとり患者さんのセルフケア支援や副作用症状出現時の症状マネジメントを行っています。がん治療は、ご家族を含めての情報提供や心理的サポートがとても大切です。

スタッフへの継続教育やがん化学療法リンクナース会では、講義を行いがん化学療法看護の知識・技術を深めています。また、他施設とのネットワークも大切に院内外の活動を通して、患者さんやご家族が安心してがん化学療法を受けられるよう努めています。

● がん放射線療法看護認定看護師

熊谷 直美

放射線療法は医師と放射線科技師で行われ看護師の関与が少ない分野でしたが、がん対策推進基本法で放射線療法従事者の育成が目標とされ、2010年よりがん放射線療法認定看護師が活動を開始しました。



放射線療法の治療過程で患者さんとその家族の方に起こる様々な身体・心理・社会的問題をアセスメントし、治療効果を最大限に得るために放射線療法の原理に基づき、その方に合わせた有害事象の予防・緩和や安全に治療を完遂するための支援をしています。

患者さんや家族の方への看護の実践ばかりでなく、院内や他施設の看護師、看護学生への指導や相談という教育的役割を通し、患者さんの視点で放射線療法における問題を解決できる看護師が増えていくことを願い活動しています。

● **がん性疼痛看護認定看護師**

早坂 利恵



痛みとは、本人にしか感じられない感覚の一つでとても捉えにくいものです。そして、多くのがん患者さんが痛みを主症状として訴えると言われています。がんを患う患者さんの身体的な痛みだけでなく、がんの治療や副作用、不安、経済的な悩みなど様々な要因から起こる"痛み"や"つらさ"が和らぐことで治療が良い方向に進むように、また"痛み"や"つらさ"のない生活に近づけるようお手伝いをさせていただきます。

現在、緩和ケアチームとして、入院中の患者さんだけでなく外来でも活動を行っています。院内では緩和ケアリンクナース会のオブザーバーとして、また院外活動として、看護学生への講義、医療者への緩和ケア研修の企画、運営等を通し緩和ケアの普及・質の向上に向けて取り組んでいます。

● **緩和ケア認定看護師**

鈴木 美穂



緩和ケアは、がんと診断されたときから身体や心の辛さ、様々な生活上の不安からくる辛さを和らげ、最後の時までそのひとらしく生きることを支えるケアです。患者さんやご家族が病気による身体の辛さや心の辛さを和らげ、より良い生き方ができるように支援することを目指しております。

現在は、緩和ケアチームの一員として、患者さんご家族に対する看護支援と、緩和ケアリンクナース会の活動推進に取り組み、今年度緩和ケア週間に広報活動を行い好評を得ております。

● **皮膚・排泄ケア認定看護師**

鈴木 藤子 (写真:左) 齋藤 知江 (写真:右)



「創傷ケア(褥瘡を含む)」「ストーマケア」「失禁ケア」の3つの分野にわたり排泄管理などを専門領域として活動しています。特にストーマ増設患者さんに対して、ストーマ周囲の皮膚障害予防ケア、ストーマ装具の選択と装直方法、日常生活上の問題に対し少しでも手術前の生活に近づけるようスタッフと連携を図り支援しています。また、患者さん個々の看護支援に対する病棟スタッフへの教育指導も行い、質の向上を目指し取り組んでいます。さらに院内褥瘡予防対策委員

会のコアメンバーとして、褥瘡予防を目指し個々の患者さんに適した体圧分散寝具の選択やスキンケアの実践を行っています。

排泄の問題は他人に相談しにくい分野であるため、QOLを著しく低下させることにつながります。患者さんとその家族の問題解決に向けて相談にのり、患者さんの笑顔を得られるよう患者さんを取り巻く全ての人々と連携を取り活動を進めています。

● **感染管理認定看護師**

菊地 義弘



私たちの体や環境には多くの微生物が存在しています。健康であれば感染症を起こしませんが、何らかの原因で抵抗力が低下した状態や点滴や手術などの医療行為は感染を起こす機会となります。感染管理はこうした院内での医療関連感染を防ぐことは勿論、院内に感染を持ち込まないよう地域制御も大切な要素となります。

微生物への視点、組織や地域への視点、それぞれを組み合わせ、感染防止対策が高められるようICT活動を行い、さらに感染に関する相談を受け対応しています。また、感染防止対策リンクナースを通し院内スタッフへの教育指導を行っています。当センターを利用して下さる皆様が、感染を起こさず安全な医療・看護が受けられるよう努めています。

★ **がんセンター認定看護師**
7分野9名

がん化学療法看護	2名
がん放射線療法看護	1名
乳がん看護	1名
がん性疼痛看護	1名
緩和ケア	1名
皮膚・排泄ケア	2名
感染管理	1名

2015年9月現在

★ **看護部公開研修会**

<過去に開催された看護部公開研修会の内容>

	日 時	テーマ
第1回	H24年1月28日	スキンケアを意識した手の衛生
第2回	H24年6月23日	がん化学療法 放射線療法 がん性疼痛の看護(基礎編)
第3回	H24年12月1日	がん化学療法 放射線療法 がん性疼痛の看護(応用編)
第4回	H25年6月29日	緩和ケアに役立つ介入法 ～マッサージ法・リラクゼーション法～
第5回	H25年11月16日	がん患者の家族ケア
第6回	H26年7月12日	がん患者とその家族を理解し支えるために
第7回	H26年11月8日	がん治療における皮膚障害のケア
第8回	H27年7月25日	がん患者の症状マネジメント ～疼痛・せん妄～
第9回	H27年11月7日	がん患者の終末期ケア ～終末期・臨死期～

第12回 がんセンターフォーラム開催のご案内

日 時:平成 28 年 2 月 20 日(土) 9:00~16:00
 場 所:宮城県立がんセンター 1階 大会議室
 内 容:各部門のからの研究・報告等の発表

参加費無料

申し込み不要

ご都合の付く時間にご参加ください

【特別講演】

テーマ:がん免疫について(仮)
 講 師:菅村 和夫 先生
 宮城県立がんセンター 研究所特任部長

テーマ:救急医療について
 講 師:今 明秀 先生
 八戸市民病院 救命救急センター長

※いずれも講演時間は未定です

問い合わせ先:宮城県立がんセンター 総務課 石井



外来新患診療体制表

平成27年11月現在



(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科	新患	●	●	●	●	●
	専門外来	肝臓	肝臓	上部・胆膵	肝胆膵・下部	上部消化管
血液内科		●		●		●
腫瘍内科		●		●		
呼吸器内科		●	●	●	●	●
呼吸器外科				●		●
乳腺外科		●			●	
消化器外科			●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸部外科		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線治療科		●	●	●	●	
緩和ケア内科				●		●

*消化器科では、専門外来の診察日にも紹介患者さんの予約を受け付けております。お申し込みの際にご確認下さい。
 診療受付時間:午前8時30分~11時00分 TEL 022-384-3151(代) FAX 022-381-1169 (地域医療連携室)



交通案内

J 桜交 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
R 南交 名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
自家用車 名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
 県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

- 受付 午前8時30分~午後5時15分
- TEL (022) 381-5152 (直通)
- (022) 384-3151 (代) 内線123
- FAX (022) 381-1169 (地域医療連携室)

宮城県立がんセンター
 〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
 電話(代表) (022) 384-3151 FAX(企画総務課) (022) 381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。